

都城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	美術
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	物質工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	高等学校 美術 I（光村）、スケッチブック（F6）、木彫小箱				
担当教員	川畑 清美				
到達目標					
1) 主題を基に自分なりの発想や構想を持ち、意欲的に表現することができる。 2) 材料や用具の特性や技法について理解し、表現に生かすことができる。 4) 絵画、彫刻、デザイン等の鑑賞の楽しさを味わうとともに、よさや美しさについて自己の感想を持つことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 A	標準的な到達レベルの目安 B	未到達レベルの目安 C	(学生記入欄) 到達したレベルに○をすること。	
評価項目1	自分が伝えたいテーマが明確であり、アイデアスケッチを繰り返して、構成や配色による違いを考慮しながら、他者にテーマを伝えるための適切な表現方法を追及し、完成までの見通しを立てることができる。	自分が伝えたいテーマを持ち、アイデアスケッチを繰り返して、構成や配色による違いを考慮し、完成までの見通しを立てることができる。	自分が伝えたいテーマを持つことなく、ただアイデアスケッチを描いている。構成や配色による違いが一部は理解できる。	A ・ B ・ C	
評価項目2	材料の特性を理解し、その特性を最大限に生かすことができる。 道具の特性や使用方法を理解し、的確に使うことができる。 作品の完成度が高くテーマが伝わる仕上がりとなっている。	材料の特性を理解することができる。 道具の特性や使用方法を理解することができる。 作品の完成度はまずまずだが、更に改善の余地がある。	材料の特性を一部は理解できる。 道具の特性や使用方法を一部は理解できる。 作品は何をイメージしているのかわかりにくく、作業が荒い。未完成の状態で提出している。	A ・ B ・ C	
評価項目3	作品のよさや美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫を具体的に挙げながら、作品に対する自分の思いや考えを述べることができる。	作品のよさや美しさを感じ取り、作品に対する自分の思いや考えを述べることができる。	作品の配色や形の様子を述べることはできる。	A ・ B ・ C	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 3-3					
教育方法等					
概要	美術の創作活動を通して、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し表現する能力を養成する。				
授業の進め方・方法	1) 与えられた課題は最後まで取り組み、課題の提出期限日を守ること。 2) 定期試験は行わないため、課題を提出しなかった場合は不合格となる。 1) 教科書に目を通しておく。 2) 身近な生活の中にある造形（食器、文房具、インテリア、商品パッケージ、広告等）に興味を持ち、楽しむ。				
注意点					
ポートフォリオ					
(学生記入欄) 【理解の度合】理解の度合について記入してください。 (記入例) ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。 ・ 前期中間試験まで： ・ 前期末試験まで： 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。 (記入例) ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 ・ 前期中間試験 点数： 総評： ・ 前期末試験 点数： 総評： 【総合到達度】「到達目標」どおりに達成することができたかどうか、記入してください。 ・ 総合評価の点数： 総評：					
(教員記入欄) 【授業計画の説明】実施状況を記入してください。 【授業の実施状況】実施状況を記入してください。 ・ 前期中間試験まで： ・ 前期末試験まで： 【評価の実施状況】総合評価を出した後に記入してください。					

授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 美術の概論 絵画・鉛筆デッサン	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 美術の意義を理解して、美術を学ぶ意欲や心構えを持つ。 鉛筆の扱い方や基礎技法を理解できる。対象を観察して形体の捉え方を理解し、陰影を描き分けたり、質感を表すことができる。	
		2週	幾何形体のデッサン 靴のデッサン	鉛筆の持ち方、明暗の調子のつけ方、立体的に影をつける方法 モチーフの形体の捉え方、タッチによる質感の描き分け	
		3週	靴のデッサン 暮らしを豊かにするデザイン デザインの広がりを考える	身の回りにある機能的で美しいデザインに関心を持ち、デザインの意味について理解できる。人になじむデザインを考え、提案することができる。	
		4週	学科のシンボルマーク制作	身の回りにあるデザインを分析して、幅広いデザインの世界や役割を理解する。	
		5週	学科のシンボルマーク制作	目的や使われる場面を考え、分かりやすく魅力的な学科のシンボルマークを制作する。	
		6週	工芸・木彫小箱 アイデアスケッチ	彫刻刀の安全な使い方、効果的な表現方法を身につけて、制作方法の手順について計画を立て、順序立てて作業することができる。木の持つ温かさや木目の美しさを理解し、作品に生かすことができる。 木彫工芸の作品の鑑賞、木の特性について理解しアイデアスケッチを描く	
		7週	彫り一色々な技法	彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する	
		8週	彫り一色々な技法	彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する	
	2ndQ	9週	彫り一色々な技法	彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する	
		10週	彫り一色々な技法 着色、仕上げ	彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する サンドペーパーで整えて、ニスで着色する。	
		11週	自分を見つめて・自画像の制作	「自分」を作品で表現することに関心を持ち、主体的・意欲的に制作することによって、自己の内面を見つめ、自分らしさとは何かを考えることができる。	
		12週	フォトコラージュ技法を用いた、顔を描かない自画像の制作	自分を代弁する要素となるコラージュの収集。	
		13週	フォトコラージュ技法を用いた、顔を描かない自画像の制作	構図、画面構成を考えて制作する。	
		14週	フォトコラージュ技法を用いた、顔を描かない自画像の制作	構図、画面構成を考えて制作する。	
		15週	自己の感想	制作を終えての自己評価、感想をまとめる	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		成果品実技	その他	合計	
総合評価割合		70	30	100	
知識の基本的な理解		10	10	20	
思考・推論・創造への適応力		20	5	25	
汎用的技能		10	5	15	
態度・志向性（人間力）		10	10	20	
総合的な学習経験と創造的思考力		20	0	20	